

1. 施策の目的と目標

□目標とする交通環境	I. 誰もが移動しやすい交通環境を整備する	□目的	公共交通が利用しにくいクルマに依存しなくてはならない現状を改善して、市民や来街者など誰もが公共交通を利用しやすくすることにより、目的に応じて公共交通とクルマが共存できる交通環境の構築を目指す。			
□施策の体系	1 公共交通空白地域を改善する 2 幹線と支線により、効率的に目的地に移動できる公共交通を整備する 3 バスの利便性を向上する		4 公共交通の案内情報を充実する 5 公共交通へのアクセス手段を拡大する 6 渋滞を解消し公共交通も通りやすい幹線道路を整備する			
□目標指標	指標名	基準数値 (a) (基準年)	数値 (b) (評価年)	目標数値 (c) (目標年)	達成状況 (%) 基準年(a/c) ⇒ 評価年 (b/c)	進捗評価
	(1) 公共交通の年間利用者数	3391万人 (H18年)	3315万人 (H27年※)	4200万人 (H30年)	80.7% ⇒ 78.9%	近年は増加傾向
	(2) 都市計画道路の整備率	67.4% (H22年度)	70.7% (H27年度)	73.1% (H29年度)	92.2% ⇒ 96.7%	概ね順調に進捗
	(3) 交通での移動に関する市民満足指標 (参考) ・公共交通ネットワークの充実 ・道路ネットワークの充実 ・自転車のまち宇都宮の推進	32.3% 38.0% 30.8% (H24年度)	(参考) 27.8% 35.9% 25.8% (H28年度)	45.9% 50.8% 41.2% (H29年度)	(参考) 70.4% ⇒ 60.6% 74.8% ⇒ 70.7% 74.8% ⇒ 62.6%	—

※H27年：路線バスはH27.10～H28.9 JR線はH27.1～H27.12 東武線・地域内交通はH27.4～H28.3

2. 「短期的施策事業」における重点施策事業の進捗状況

(凡例) ◎:予定どおりに実施 ○:おおむね予定どおりに実施 (一部未完了) △:一部未実施

施策事業名	事業主体	H27年度 実施状況	H28年度 当初予定	H28年度 実施状況	H28年度 評価	H29年度 当初予定
I-1-① バス路線の新設	バス事業者 宇都宮市	○インターパーク線ほか10系統の運行継続(東野) ○今宮線の自主運行への移行(関東) 年間のべ約5.6万人/利用 ○停留所の新設(JRバス)	○今宮線の運行継続(関東) ○効率的・効果的な路線の検討	○今宮線の運行継続(関東) ○石那田線の篠井ニュータウンへの一部延伸 ○停留所の新設「栃木県JAビル前(平出工業団地内)」 ○JR宇都宮駅東側におけるLRTの導入と合わせたバスネットワーク再編の検討 →運行ルート、運行本数等の検討, バスネットワーク再編案の作成	◎ ◆H26年度の社会実験路線である「今宮線」について、バス事業者の自主運行へ移行し、継続するとともに、既存路線である「石那田線」について、篠井ニュータウン内へ延伸することにより、公共交通空白地域の解消が図られている。 ◆JR宇都宮駅東側のバス路線再編の検討のなかで、バス路線の新設について検討を行っている。 ◇引き続き、バス路線新設の必要性の高い路線について、バス路線再編などの機会を捉えながら、新規導入や導入後の路線維持の手法を含めて検討を進め、公共交通空白地域の解消を図る必要がある。	○日光線・今市線の篠井ニュータウンへの延伸 ○JR宇都宮駅東側におけるLRTの導入と合わせたバスネットワーク再編の検討 →バス事業者との協議・調整
I-1-② 地域内交通の導入	地域住民 宇都宮市	○導入に向けた取組 →住民説明会の実施(清原, 姿川, 城山) →運行内容の検討 →試験運行(平石, 豊郷) ○導入地区の取組 →導入自治会の拡大(雀宮) →目的施設の追加, 運行診断, 利用促進	○導入に向けた取組 →意識醸成・意向把握 →運行内容の検討 →試験運行(姿川) ※郊外部全地区導入 ○導入地区の取組 →利用促進, 利便性向上, 運行効率化 →導入自治会の拡大(清原, 城山, 雀宮) ○乗継利便性の強化 →バスと地域内交通の連携強化策の検討	○導入に向けた取組 →意識醸成・意向把握 ・アンケート調査の実施(城山など3地区) →運行内容の検討 ・検討組織の設置(姿川・清原南部) ・運行診断の実施(姿川・城山) ○既導入地区の取組 →利用促進, 利便性向上, 運行効率化 ・目的施設の追加 ・特定日における臨時運行 ○乗継利便性の強化 →LRTや幹線バスと地域内交通の連携強化策の調査・検討 ○市街地における生活交通の導入 →意識醸成・意向把握 ・住民説明会の実施(石井など6地区) ・アンケート調査の実施(石井地区・峰地区) →運行内容の検討 ・検討組織の設置(石井地区)	△ ◆当初予定していた未導入地区における試験運行について、調整に時間を要したため進捗が遅れているものの、その他の未導入地区において、検討組織を設置するとともに、アンケート調査を実施し、住民の移動実態や利用意向の把握に努めるなど、地域が主体となって導入に向けて取り組んでおり、また既導入地区において、目的施設を追加するなど利便性の向上に取り組んでいる。 ◆LRTやバスとの乗継利便性を強化するため、最適な乗継ポイントの選定や待合環境整備の考え方などを取りまとめた。 ◆市街地における生活交通の導入に向けて、導入意向のある地区において住民説明会を開催するなど、機運の醸成を図るとともに、より進捗している地区において、検討組織を設置するなど、地域と一体となって取り組んでいる。 ◇引き続き、郊外部全地区への導入に向けて取り組み、公共交通空白地域の解消を図るとともに、既導入地区における利便性の向上に取り組んでいく必要がある。 ◇また、他の交通モードとの乗り継ぎポイントにおける待合環境の整備を行うなど、利便性の強化を図る必要がある。 ◇さらに、市街地における生活交通の導入に向けて、導入意向のある地区において、機運の醸成を図りながら、検討を進める必要がある。	○導入に向けた取組 →意識醸成・意向把握 →運行内容の検討 →試験運行:姿川など3地区 ○既導入地区の取組 →利用促進, 利便性向上, 運行効率化 ○乗継利便性の強化 →モデル地区におけるバスと地域内交通の連携強化策の実施(利用環境整備・運賃負担軽減) ○市街地における生活交通の導入 →導入意向のある地区における検討の推進

(凡例) ◎:予定どおりに実施 ○:おおむね予定どおりに実施 (一部未完了) △:一部未実施

施策事業名	事業主体	H27年度 実施状況	H28年度 当初予定	H28年度 実施状況	H28年度 評価	H29年度 当初予定
I-1-③ サイクル&ライド(サイクル&バスライド)用駐輪場の整備	バス事業者 栃木県 宇都宮市	○バス停付近 →(国)119号 中戸祭(用地買収)(県道保) ○鉄道駅付近 →JR宇都宮駅東口第2市営駐輪場の拡充(自転車153台,自動二輪車55台分)	○バス停付近 →(国)119号 中戸祭 ○鉄道駅付近 →岡本駅周辺整備による駐輪場の供用開始	○バス停付近 →国道119号「中戸祭バス停(継続)」 →白沢街道「地蔵前バス停」 →足利銀行緑町出張所「緑2丁目バス停」 ○鉄道駅周辺 →JR岡本駅西口市営駐輪場の供用開始(7/1~)	◎ ◆鉄道駅やバス停留所付近のサイクル&ライド(バスライド)用駐輪場について,新規整備や既存の民間施設の駐輪場の活用により確保することにより,鉄道や路線バスへのアクセス圏域の拡大と利用者の利便性向上が図られている。 ◇引き続き,サイクル&ライド(サイクル&バスライド)用駐輪場の整備などにより,公共交通の利用圏域の拡大や,利用者の利便性向上に取り組む必要がある。	○バス停付近 新設1箇所,民間施設の既存駐輪場活用1箇所(宇都宮市)
I-4-① 鉄道駅におけるインフォメーションの改善	バス事業者 宇都宮市	○JR宇都宮駅 →有人案内の実施(西口4人,東口1人体制の維持/関東) →観光案内所への情報提供(バスマップ配布) →市広報紙やバスマップによる案内システムの利用方法等の周知	○JR宇都宮駅 →有人案内の実施 →観光案内所への情報提供 →バス総合案内システムの周知	○JR宇都宮駅 →有人案内の実施(西口4人,東口1人体制の維持/関東) →観光案内所での情報提供(バスマップ配布) →バス総合案内システムの運用および利用方法等の周知(バスマップへの記載等)	◎ ◆JR宇都宮駅において,有人案内や観光案内所でのバスマップの配布,バス総合案内システムの運用により,来訪者等への情報提供を実施している。 ◇引き続き,公共交通の利便性向上に資するため,一部のバス事業者が導入したバスロケーションシステムを活用し,バス乗り場へバス接近表示機を設置するなど,案内情報の充実に取り組む必要がある。	○JR宇都宮駅 →有人案内の実施 →観光案内所への情報提供 →バス総合案内システムの運用および利用方法等の周知 →バス乗り場への接近表示機の設置(関東)
I-5-③ JR岡本駅周辺の整備	宇都宮市	○西口広場整備工事 ○駅西駐輪場整備工事 ○東口電線共同溝詳細設計	○西口広場整備工事	○西口駅前広場整備工事 →西口駅前広場整備工事,電線類の地中化工事 →西口駅前広場の供用開始(7/1~) →JR岡本駅西口市営駐輪場の供用開始(7/1~)【再掲】	◎ ◆JR岡本駅の橋上駅舎や東西自由通路の整備に伴う西口駅前広場と市営駐輪場の供用開始により,駅西側の鉄道利用者の駅へのアクセス性の向上が図られている。 ◇引き続き,鉄道利用者の利便性向上を図るため,東口駅前広場の再整備に取り組む必要がある。	○東口駅前広場整備工事 ○東口電線共同溝整備工事
I-6-① 都市計画道路の整備	栃木県 宇都宮市	○供用開始 →宇都宮鹿沼線(下荒針町) ○一部供用開始 →鹿沼宇都宮線(下栗町) ○用地補償,改良工事等 →環状北道路 大通り(駒生ほか),宇都宮水戸線(築瀬町),鹿沼宇都宮線,産業通り(陽南)ほか	○用地補償,改良工事等 →国道119号(環状北道路) 国道408号(真岡宇都宮バイパス) 大通り(駒生ほか) 宇都宮水戸線(築瀬町) 産業通り(陽南) 宇都宮日光線(一条)ほか	○用地補償,改良工事等 →国道119号線(環状北道路) 国道408号線(真岡宇都宮BP) 大通り(駒生ほか) 宇都宮水戸線(築瀬町) 宇都宮日光線(一条) 鹿沼宇都宮線(下栗町) 産業通り(陽東・陽南) 宇都宮日光線(一条) 鶴田宝木線(鶴田町) みずほの通り(上籠谷町) 弁天通り(宝木本町)	○ ◆現在整備中の都市計画道路について,用地交渉が難航したことにより一部未完了となっている路線があるものの,大部分の路線においては,道路改良や交差点部の立体交差化などの整備を着実に推進している。 ◇引き続き,道路交通の円滑化や公共交通の定時性向上を図るため,現在,進めている都市計画道路の整備に着実に取り組む必要がある。	○用地補償,改良工事等 →国道119号線(環状北道路) 国道408号線(真岡宇都宮バイパス) 大通り(駒生ほか) 宇都宮水戸線(築瀬町) 鹿沼宇都宮線(下栗町) 産業通り(陽東・陽南) 宇都宮日光線(一条) 鶴田宝木線(鶴田町) みずほの通り(上籠谷町)

3. 「短期的施策事業」における重点以外の主な施策事業の進捗状況

(凡例) ◎:予定どおりに実施 ○:おおむね予定どおりに実施 (一部未完了) △:一部未実施

施策事業名	事業主体	H27年度 実施状況	H28年度 当初予定	H28年度 実施状況	H28年度 評価	H29年度 当初予定
I-4-③ バスの運行情報の提供	バス事業者 宇都宮市	○循環線を対象としたバスロケーションシステムの運営継続	○循環線を対象としたバスロケーションシステムの運営継続 ○全車両へのバスロケーションシステムの導入(関東)	○循環線を対象としたバスロケーションシステムの運営継続 ○全車両へのバスロケーションシステムの導入(関東)	◎ ◆循環線を対象としたバスロケーションシステムの運用を継続するとともに,一部のバス事業者において,全車両にバスロケーションシステムを導入し,路線バスの運行情報の提供を強化している。 ◇引き続き,市内バス事業者へのバスロケーションシステムの導入を推進するとともに,現在は携帯端末や市役所等での閲覧に限定されることから,主要なバス停留場等への接近表示機の設置を推進し,案内情報の充実に取り組む必要がある。	○JR宇都宮駅のバス乗り場へのバス接近表示機の設置(関東)【再掲】 ○バスと地域内交通の乗継ポイントへのバス接近表示機の設置(1箇所)

4. 主な中期的施策事業の進捗状況

(凡例) ◎:予定どおりに実施 ○:おおむね予定どおりに実施 (一部未完了) △:一部未実施

施策事業名	事業主体	H27年度 実施状況	H28年度 当初予定	H28年度 実施状況	H28年度 評価	H29年度 当初予定
I-2-① 基幹公共交通の整備	宇都宮市	○市民説明の実施 → 広報紙を活用したLRT特集の掲載及び全戸配布(平成28年3月号) → オープンハウスの開催(17会場, 延べ37日間, 計672名来場) → 「沿線5地区LRT事業説明会」等の開催(計872名参加) → 出前講座の開催(9団体, 277名) ○整備に向けた取組 → 「芳賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会」の開催(第6回～第12回) → 「芳賀・宇都宮東部地域公共交通活性化協議会」の開催(第1回～第3回) → 「芳賀・宇都宮東部地域公共交通網形成計画」の策定(H27.11月) → 官民連携による会社として「宇都宮ライトレール株式会社」の設立(H27.11月) → 「軌道運送高度化実施計画」策定, 認定申請(H28.1月) → 都市計画決定に向けた手続の開始(H28.1月～) → 路線測量, 軌道基本設計などの実施(継続)	○市民説明の実施 → オープンハウスの開催 → 出前講座の実施 → 広報紙の活用 → 地権者など関係者への説明会の開催等 → パンフレットの作成 → 映像の作成 ○駅東側整備に向けた取組 → 「芳賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会」及び「LRT車両部会」の開催 → 都市計画の決定 → 軌道事業の特許の取得 → 工事施行認可の取得 ○駅西側整備に向けた検討 → LRTの駅西側整備に係る基礎調査	○市民理解促進の取組 → 沿線地区説明会, オープンハウス等の開催 → 広報紙や新聞広告, リーフレットの新聞折込による情報発信 → 映像資料の公開(LRT事業・デザインコンセプト) ○駅東側整備に向けた取組 → 駅東側区間の都市計画決定 → 軌道運送高度化実施計画の国による認定(軌道事業の特許取得) → LRTデザインコンセプトの発表 → 「基幹公共交通検討委員会」等の開催 ○駅西側整備に向けた取組 → 基礎調査の実施(LRTの整備区間の検討, 課題の抽出, LRT導入後の交通ネットワークの検討など)	△ ◆優先整備区間である駅東側について, 都市計画決定を行うとともに, 「軌道運送高度化実施計画」の国の認定(軌道事業の特許取得)を受けてたところであり, 今後の工事施行認可申請に向けて, 関係機関と協議・調整しながら申請に必要な資料の内容確定に取り組んでおり, 当初の予定より時間を要してはいるものの, 整備に向けて着実に推進している。 ◆また, LRT事業について, 沿線地区説明会やオープンハウスを開催し, 市民に直接説明するとともに, 広報紙や新聞を活用するなど, 広く周知を図ることにより, 理解促進に努めている。 ◆さらに, 駅西側については, LRTの導入区間やバスネットワーク再編の検討などを行い, LRT導入後の交通ネットワークの検討を進めている。 ◇駅東側について, 引き続き, 工事施行認可の取得に向けて関係機関と協議・調整を進めるなど, 本市の公共交通の基軸となるLRTの整備事業の着実な推進に取り組むとともに, LRT事業に関する正確な情報を発信するなど, 更なる市民理解の促進に取り組む必要がある。 ◇また, 駅西側については, LRT導入に向けた課題への対応策の検討を進める必要がある。	○市民理解促進の取組 → 事業説明会, オープンハウス等の開催 → 各種広報活動の実施 ○駅東側整備に向けた取組 → 工事施行認可の申請・取得 → 都市計画事業認可の申請・取得 → 工事着手 → 「基幹公共交通検討委員会」等の開催 ○駅西側整備に向けた取組 → LRT導入にかかる課題対応策の検討, 整備概要の取りまとめ
I-2-② 幹線公共交通の整備	バス事業者 宇都宮市	○駅東側のバスネットワーク再編 → 「芳賀・宇都宮東部地域公共交通網形成計画」の策定(将来の公共交通ネットワークイメージにおいて, 幹線バス路線を位置付け)	○駅東側のバスネットワーク再編 → 再編計画に関する調査	○JR宇都宮駅東側におけるLRTの導入と合わせたバスネットワーク再編の検討【再掲】 → 運行ルート, 運行本数等の検討, バスネットワーク再編案の作成	◎ ◆駅東側におけるLRT導入後のバスネットワーク再編の検討を進める中で, LRTとの連携と分担を踏まえた幹線バス路線の運行経路や運行本数等について検討を進めている。 ◇引き続き, LRTを基軸とした利便性の高い公共交通ネットワークを構築するため, バス事業者等と協議しながら幹線バス路線などのバスネットワーク再編の検討を進める必要がある。	○JR宇都宮駅東側におけるLRTの導入と合わせたバスネットワーク再編の検討【再掲】 → バス事業者との協議・調整
I-2-③ トランジットセンターの整備	宇都宮市	○駅東側の整備に向けた取組 → 「芳賀・宇都宮東部地域公共交通網形成計画」においてトランジットセンター整備を位置付け	○駅東側の整備に向けた取組 → 既存施設の活用も含めた整備のあり方の検討 → 施設整備に係る具体的検討	○駅東側の整備に向けた取組 → 既存施設の活用も含めた整備のあり方の検討 → 施設整備に係る具体的検討(各交通との結節の考え方, 施設規模の検討など)	◎ ◆駅東側において, 既存施設の活用も含めたトランジットセンター整備のあり方や, 具体的な施設計画について検討を進めている。 ◇引き続き, 利便性の高い乗り継ぎ拠点の整備に向けて, トランジットセンターの施設計画等の検討を進めるとともに, 賑わいや交流の創出のための広場や休憩施設の整備などについても検討を進める必要がある。	○駅東側整備に向けた取組 → 施設計画の検討 → 管理運営方法の検討 → 地権者や関係機関との協議調整
I-3-⑨ ICカードの導入	バス事業者 LRT運営会社 宇都宮市	○導入に向けた取組 → LRT・バス共通の交通ICカードシステムの検討 → 宇都宮ICカード導入検討協議会(県, 市, バス事業者3社, 宇都宮ライトレール)の設立	○導入に向けた取組 → 全国相互利用カードの片利用の実現に向けた調整, LRT・バス共通の交通ICカードシステムの検討	○導入に向けた取組 → 宇都宮ICカード導入検討協議会における協議・調整(サービス・システムについて) → 全国相互利用カードの片利用の実現に向けた調整 → 導入機器・運用の整理, 概算費用の算出	◎ ◆地域独自カードと全国相互利用カードとの片利用によるLRT・バス共通の交通ICカードシステムの導入による公共交通の利便性向上を図るため, サービスやシステムに関する調整を進めるなど, 導入に向けた取組を着実に推進している。 ◇引き続き, バスやLRTの乗降や乗り継ぎを円滑化し, 利用者の利便性向上を図るため, 交通ICカードの導入に向けて, 片利用の実現に向けた調整やLRTの運賃収受方法の決定などに取り組みながら, 早期に効果を発揮できるようバスへの先行導入について検討を進める必要がある。	○導入に向けた取組 → 全国相互利用カードとの片利用の実現に向けた調整 → LRTの運賃収受方法の検討

5. 施策の評価

< I - 2 > 幹線と支線により効率的に目的地に移動できる公共交通の整備

・本市が目指す階層性のある公共交通ネットワークの基軸となるLRTについて、優先整備区間である駅東側の都市計画決定を行うとともに、「軌道運送高度化実施計画」の国の認定を受けてたところであり、今後の工事施行認可申請に向けて、関係機関と協議・調整しながら申請に必要な資料の内容確定に取り組んでおり、当初の予定より時間を要してはいるものの、整備に向けて着実に推進している。

・また、LRT導入と合わせたバスネットワーク再編に向けた検討を行い、再編後のバス路線の運行経路や運行本数等について、バス事業者との協議・調整を進めている。

・さらに、駅西側において、LRTの整備区間やバスネットワーク再編など、LRT導入後の交通ネットワークの検討を進めている。

< I - 3 > バスの利便性の向上

・バスやLRTの乗降や乗り継ぎを円滑化する交通ICカードシステムの導入について、サービスやシステムに関する調整を進めるなど、導入に向けた取組を着実に推進している。

< I - 1 > 公共交通空白地域の改善

・社会実験等により新設したバス路線の維持や既存バス路線の延伸に加え、未導入地区への地域内交通の導入に向けて取り組むことなどにより、公共交通空白地域の改善が図られている。

< I - 4 > 公共交通の案内情報の充実

・JR宇都宮駅において、バス乗り場での有人案内やバス総合案内システムを運営するとともに、バス事業者において、全車両へのバスロケーションシステムを導入するなど、来訪者等への情報提供に取り組んでいる。

< I - 5 > 公共交通のアクセス手段の拡大

・JR岡本駅の東西自由通路や西口駅前広場、市営駐輪場の供用開始により、鉄道益へのアクセス性が向上したことに加え、市内のバス停留場におけるサイクル&バスライド用駐輪場の整備により、公共交通へのアクセス圏の拡大に取り組んでおり、前述の公共交通空白地域の改善や案内情報の充実の取組による成果と合わせて、公共交通利用者は前年比1.5%増となり、8年ぶりの3,300万人台となった。

< I - 6 > 幹線道路の整備

・現在着手済みの都市計画道路において、用地交渉が難航したことにより一部遅れが発生している路線があるものの、道路改良や交差点部の立体交差化などの整備を着実に推進することにより、渋滞の解消など、交通の円滑化に取り組んでいる。

6. 取組の方針

< I - 2 > 幹線と支線により効率的に目的地に移動できる公共交通の整備

・駅東側のLRT整備について、引き続き、工事施行認可や都市計画事業認可取得のに向けて関係機関と協議を進め、事業の推進を図るとともに、駅西側のLRT導入に向けて課題への対応策を整理し、整備概要の作成に取り組む。

・また、多様な交通手段の乗り換え拠点であるトランジットセンターの整備に向けた検討を進めるとともに、LRTの導入と合わせたバスネットワーク再編の実施に向けて、バス事業者との協議を進めるなど、階層性のある利便性の高い公共交通ネットワークの構築に取り組む。

< I - 3 > バスの利便性の向上

・LRTとバス共通の交通ICカードシステムについて、早期に効果を発揮できるようバスへの先行導入に向けて関係機関との協議・調整を進め、バス利用者の利便性向上に取り組む。

< I - 1 > 公共交通空白地域の改善

・郊外部における地域内交通の未導入地区への早期導入を図るとともに、市街地において、「市街地における生活交通確保ガイドライン」に基づき、地域特性を踏まえながら、バスやタクシー車両等を活用した生活交通の導入を検討するなど、公共交通空白地域の改善に取り組む。

< I - 4 > 公共交通の案内情報の充実

・JR宇都宮駅における有人案内やバス総合案内システムの運営に取り組むとともに、一部バス事業者において導入したバスロケーションシステムを活用し、バス乗り場へバス接近表示機を設置するなど、情報提供の充実に取り組む。

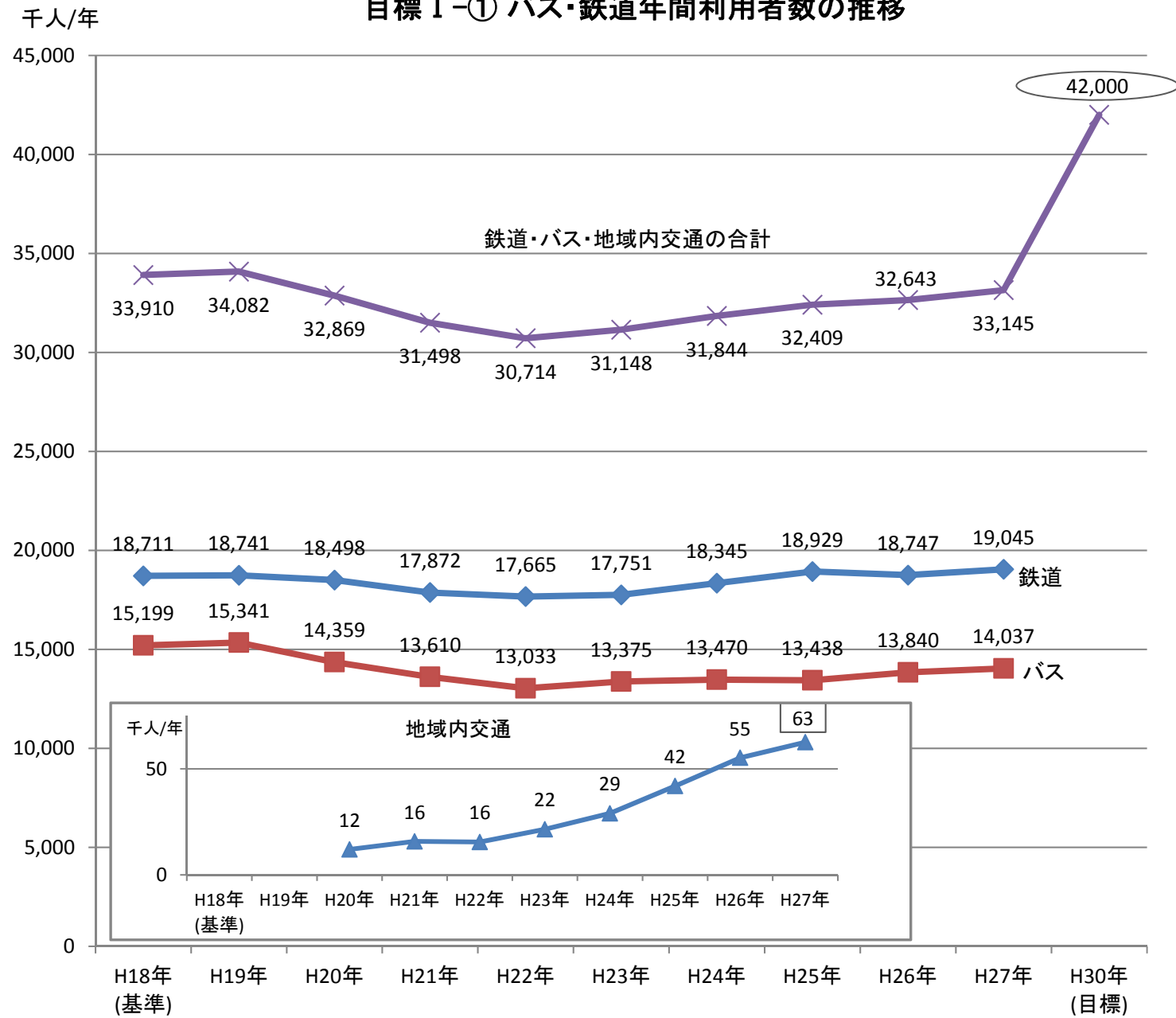
< I - 5 > 公共交通のアクセス手段の拡大

・JR岡本駅東口駅前広場の整備に取り組み、鉄道へのアクセス性の向上を図るとともに、サイクル&バスライド用駐輪場の整備を推進し、バスへのアクセス圏域の拡大に取り組む。

< I - 6 > 幹線道路の整備

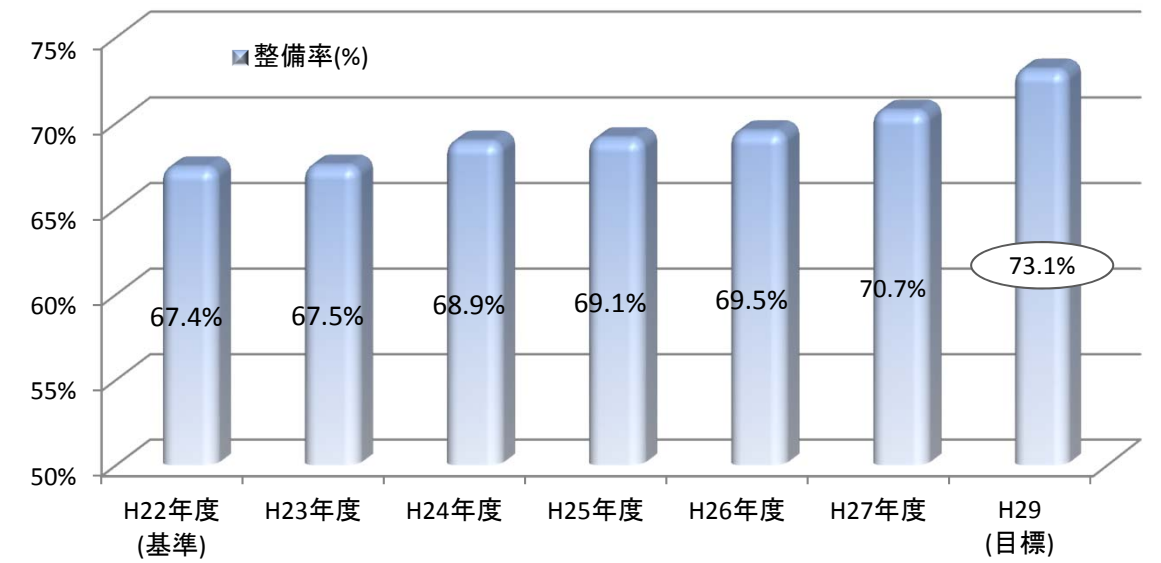
・着手済みの都市計画道路の整備を推進することにより、道路交通の円滑化と拠点間の連携を強化する交通環境の整備に取り組む。

目標 I-① バス・鉄道年間利用者数の推移

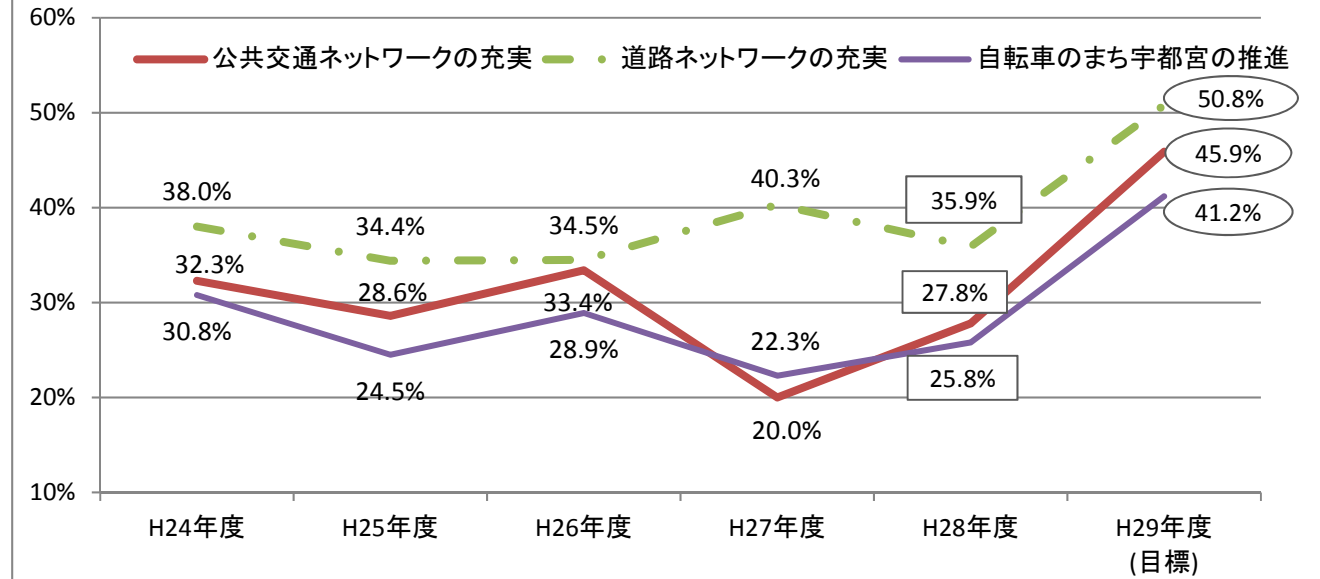


JR, 東武鉄道, 地域内交通は当年4月~翌年3月, バスは当年10月~翌年9月の数値

目標 I-② 都市計画道路の整備率



目標 I-③ 交通での移動に関する市民満足指標(参考)



・H24: 総合計画改定時のアンケート調査で「満足」「やや満足」と回答した人の割合